

平成 29 年度 足立区地域包括ケアシステム推進会議  
第 4 回 会議録

会 議 名	平成 29 年度 第 4 回 足立区地域包括ケアシステム推進会議		
開催年月日	平成 30 年 2 月 6 日 (火)		
開催場所	ギャラクシティ 3 階 多目的室 1・2		
開催時間	午後 2 時開会～午後 4 時 30 分閉会		
出欠状況	(1) 委員現在数 31 名 (2) 出席委員数 22 名 (3) 欠席委員数 9 名		
委員出欠状況 (多数の場合は別紙 で対応)	諏訪 徹	太田 貞司	酒井 雅男
	山中 崇	永田 久美子 (欠)	須藤 秀明
	太田 重久 (欠)	久松 正美 (欠)	花田 豊實
	鈴木 優 (欠)	小川 勉	鶴沢 隆
	浅野 麻由美	武田 紘之 (欠)	伊藤 俊浩
	田島 多美子 (欠)	茂木 繁	風祭 富夫
	松井 敏史	大竹 吉男	中島 毅
	村上 光夫	茂出木 直美	足立 義夫 (欠)
	儘田 政弘 (欠)	結城 宣博	川口 真澄
	和泉 恭正 (欠)	今井 伸幸	服部 仁
	須藤 純二		
	条例 9 条に基づく 意見聴取者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活支援コーディネーター (基幹地域包括支援センター、花本洋子、下鳥典子、堀崇樹、平めぐみ、桑原清美)</li> <li>●地域包括支援センター職員 (中央本町 田邊裕幸、千寿の郷 磯知恵、さの 渡部敦子、鹿浜 堀越美恵、はなはた 西海持陽子)</li> </ul>	
事務局	事務局：地域包括ケアシステム推進担当課、地域包括ケアシステム計画担当課		
会議次第	別紙のとおり		
会議に付した議題	<p><b>【議 題】</b></p> <p>1 地域包括ケアシステム構築のための検討素材【資料 1 Vol. 1.0】</p> <p>2 (仮称) 足立区地域包括ケアシステムビジョン策定のためのワークショップの実施について</p> <p style="padding-left: 20px;">①ワークショップ班名簿【別紙 1】</p> <p style="padding-left: 20px;">②ワークショップ タイムテーブル【別紙 1-1】</p> <p style="padding-left: 20px;">③第 1 回ワークショップ瓦版【別紙 2】</p> <p style="padding-left: 20px;">④地域包括ケアシステムビジョン 2025 年に向けて各団体としてできる事【別紙 3】</p> <p>3 その他</p>		

	4 事務連絡 ①次回の開催予定 平成30年5月23日(水) 午後2時 区役所8階 特別会議室
--	--

○澤田計画担当係長 皆様、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから足立区地域包括ケアシステム推進会議を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中、ご出席くださいます。誠にありがとうございます。また、本日は会場がギャラクシティということで庁舎の外になりご不便をおかけし誠に申し訳ございません。本日の司会は、地域包括ケアシステム計画担当課、澤田が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

傍聴者の皆様にお願いがございます。会場内でのビデオカメラ、カメラ、携帯電話等のご使用はお控えいただくようお願いいたします。ご理解・ご協力よろしくお願いいたします。また、この会議は、足立区地域包括ケアシステム推進会議条例第7条の規定に基づきまして、委員の過半数の出席により成立いたします。現在、過半数に達しており、この会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。前回に引き続きまして、本日の会議に、第1層生活支援コーディネーター地域支えあい推進員及び各ブロック代表の地域包括支援センター職員にもご出席をお願いしています。本日の推進会議は前回同様ワークショップ形式での進行となります。後ほど進行の担当から詳しい説明がございましたので、よろしくお願いいたします。また、別紙3の「地域包括ケアシステムビジョン2025年に向けて各団体としてできること」のご提出期限につきましては、事前提出に変更させていただいたにも関わらず、ご協力いただきありがとうございます。また、各団体における集約のスケジュールの関係等で、事前提出できなかった皆様には大変申し訳ございませんでした。今後の事務局運営にあたっては、しっかりとスケジュール管理、手順の確認を行ってまいります。

それでは開会に先立ちまして、諏訪会長よりご挨拶をお願いいたします

○諏訪会長 皆さん、こんにちは。足立区の審議会は硬い会議が多くて、私もいつもその司会を静かにやっています。前回、ワークショップをやってみて非常に闊達に議論をされましたし、このまとめもそうですし、各団体さんが色々なご意見をおっしゃっているということで、やはりみんな言いたいことはあったのだなと思いました。今日も、前回と基本同じメンバーで、前回のお話を深めるような形で進めていきたいと思えます。ただ、資料を見ると似たような話が何処も出ていて、みなさん感じている課題というのは共通のものがあるなど。通常、地域包括ケアシステムで言われている介護サービス、医療、住まい、リハビリ、生活支援など大きな5つの要素といわれていますが、どうもそこにも上手く入らないような、もう少しその手前の生きがいの問題であるとか、幅広い色々な問題も出てきているかなと思います。ぜひ、そういう声を色々な提案を拾って、それから、私たちこういうことできるよと、というご提案を拾うような形でビジョンが汲み上げられていくといいかなと思いますので、活発にご議論をそれぞれのテーブルでしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○澤田計画担当係長 諏訪会長ありがとうございます。本来であれば各副会長からもご挨拶を頂戴したいところですが、限られた時間でございますので割愛をさせていただきます。進行をさせていただきます。

また、本日のワークショップの様子をデジタルカメラ、ビデオカメラ等により記録させていただきます。傍聴者の皆様には写り込みの無いよう配慮させていただきますのでよろしく

お願いいたします。次に本日の資料を確認させていただきます。事前に送らせていただいた資料は、

- ①【別紙1】地域包括ケアシステム推進会議ワークショップ班名簿
- ②【資料1】地域包括ケアシステム構築のための検討素材（案）
- ③【別紙3】地域包括ケアシステムビジョン2025年に向けて各団体としてできる事

また、本日机上に

- ①重複しますが、【別紙1】ワークショップ班名簿
- ②【別紙1-1】ワークショップタイムテーブル
- ③【別紙2】第1回ワークショップ瓦版
- ④【別紙3】「地域包括ケアシステムビジョン2025年に向けて各団体としてできる事」各団体で昨日までにご提出いただいたものです。不足等があれば事務局までお申し付けください。よろしいでしょうか。

なお、ワークショップで使用するその他の資料につきましては、ワークショップ開始前に確認させていただきます。

また、資料1の地域包括ケアシステム構築のための検討素材（案）につきましては、本日特にご説明の時間は設けていませんが、区や高齢者に関する基礎数値をまとめたものですので、今後のご議論を進めていくうえでのご参考にしていただきたいと思います。

それでは、進行を諏訪会長にお願いいたします。

○諏訪会長 それでは、それでは、次第に沿って進めてまいります。

今回は事務局からの資料の説明は予定していませんが、事前送付資料について何かご質問等があればお願いします。無いようですので、硬いのはここまでにして、早速ワークショップに入りたいと思います。ではよろしくをお願いします。

○榊インテグリサーチ 小保方

ファシリテーターと書記、各テーブルに2名ずついます。起立していただけますでしょうか。今日の進行役のファシリテーターと書記がペアでいますので、よろしくをお願いいたします。ではお座りください。11月30日と、今日の決定的な違いは時間が約2倍です。前回はちょうど1時間で終わりましたが、今日は2時間あります。とはいっても、議論が深まるとあっという間だと思います。それから、別紙3で皆さんにご協力いただきました各団体毎のこういうことができたらいいのではないかと。あるいは、こういう課題があるのではないかと。このことを中心に、模造紙の上に小出しに整理したテーマ毎に提示してまいりますので、優先順位も含めてご議論いただいて、さらにそこにアイデアを繋げて、色々な取り組み同士の繋がりということを話し合いができれば、ゆくゆくはテーブルをまたがって、先ほど会長がおっしゃっていたように、同じような取り組みであれば一緒にできればいいのではないかと。このことを、より具体的にお話し合いということで、じっくり2時間を割いていければと思っています。私の説明はここまでにします。各テーブル毎の作業に移ります。これから話し合いを進めていただきたいと思います。お願いします。

（グループ討議開始）

○(株)インテージリサーチ 花田 時間になりましたので議論を終了して下さい。これから各班の議論の結果をファシリテーターより発表していただきます。発表の時間は3分間程度でお願いします。

(発表 準備)

○ファシリテーター (遠藤) 1班です。テーマは5項目ほど話しましたが、いくつかテーマの中でも、内容が被っているというか、こういったことに集約できるのではないかな、という話になったと考えています。一番初めのテーマが盛り上がったのでそれを最初に紹介させていただきますが、集う場について、長めに時間をとりました。まず、集う場所が欲しいというニーズがある。参加されている方たちだけでなく、色々な方が集まって情報共有をしたい。というのが老人クラブの方から出てきていまして、そのために、こちらには宅建の方がいまして、空き家をどのように情報開示して場所を提供できるのか。連携を取りさえすれば、空き家を上手く有効活用できるのではないか。ただ、問題は、サロンと一つ言っても、なかなかそこに足を運ぶ目的作りが難しい。それから、主体ですね。どなたが主催されるのか。主催される側のモチベーション作りも大変大事になってくる。1回参加するだけで、結局、次に来ない。そういうことを考えると、連続して来てもらえるようなサロン作り、集う場所作り。そして主催される主体側になる人も続けるだけのモチベーションを持ち続けて、皆さんで繋がっていける場所にできたらいいな、という話になりました。

2つ目は、いつまでも元気な体で、というお話です。ここにもやはり集う場というのが関連しています。こちらでは、ロコモ体操に取り込もうと思っているんだよ、というお話があったり、それよりも、フレイル対策、フレイル予防として身体的な予防だけでなく、社会的な孤立により身体的・精神的にどんどん孤立が深まっていくということを防ぐために、集いの場に出てきてもらい、そこで色々なことを取り組むことによってメンタルもフィジカルも元気な体でいられるような仕組み作りが大事だねというような話で、非常に盛り上がりました。予防、という視点が大変強かったことをご報告させていただきます。その他は、模造紙を見ていただければと思いますので、後ほどご覧ください。ありがとうございました。

○(株)インテージリサーチ 花田 ありがとうございます。続いて2班からお願いします。

○ファシリテーター (水野谷) 2班です。よろしくお願ひいたします。2班では食をテーマにしました。食は皆さん関心があるので多くの意見が出ました。この中で、最終的にアイデアとして出てきたことですが、足立区の中のレストランで足立区の栄養メニューみたいなものを出していただけるような店を募って、それに対して栄養士の方、各特養などの栄養士の方が監修をして足立区健康メニューを作る。食生活の改善を積極的に売り出したかどうかという、一アイデアがでました。次は、元気な体でいられる。具体的には体操や健康管理。その中で、「足立区体操」というのがありますが、それをもう少しアレンジしていくことを含めてやっていったらどうかというお話があって、ここに関しては、体操に色々な意味があると思いますけれども、例えば認知症予防では、認知症医療センターの監修による体操をお手伝いをお願いするなどがありました。全体を通してですが、特養にしても医療センターにしても、プロの方がいらっしゃいます。そういう方の中では、栄養指導に行ったり、プロの方は介護の制度上、他のことができないという縛りがあって、知恵が貸し出せない

いというか、時間が使えない、というお話があったので、ここに関しては制度が柔軟にならないと、難しいだろうという話がありました。その中の一環としては、誰かが来てくれて手伝ってくれる。訪問サービスみたいなことがあるのではないかと、というお話の中で、特養の運転手を活用できないかというお話があったのですが、運転手を活用するためには、今の制度では難しい。その改善も必要というお話もありました。以上です。

○(株)インテージリサーチ 花田 ありがとうございます。続いて3班からお願いします。

○ファッションライター (上野) 3班では、まず最初に、集う場がある、集うことができると、人とのつながりを感じられる。孤独にならずに済むというところから話し合いを進めました。既に、皆様の中では、集う場所を作っていられると。実際に、2月から子ども食堂をプランニングされていて、お年寄りの方に色々作っていただいて、多世代でごはんを食べてという活動を始められるということで、お話がありましたし、男性の料理教室と男性の集まるウォーキングなどもされているということ。あるいは、スーパー、コンビニを使って、わざわざ行くのではなく、毎日行くところの帰りに、ついでに、ちらっと寄れるような、そういった意味で、集ってお話をしてそこで情報提供・情報共有するようなアイデアも出ました。要は何が足りないか、というところで、現状、区民の方が見たときに点でいっぱい事が行われているらしいけれども、実際にそれを一覧にして見られるような場所なりは、無理なのかなと。むしろ、PR、周知を徹底していただきたい。窓口もワンストップで、行けば全てを教えていただける、一覧して例えば退職する方が、自分はこれから何をしようかな、といったときに、目録みたいなものであったり、リストみたいなものがあったり、自分ができることは何だろうと考える。そこからスタートできるようなものが欲しい。そういった声がたくさんありました。なので、ばらばらの活動をきっちりと1箇所ですべてまとめて、その周知を徹底させて、区の中でも縦割りではなく横一環で情報共有されていて、迷わずその場所に行くと色々な人の協力を上げると、そこを一番求めていらっしゃったというところが印象的でした。

そして、2番目の介護・医療・ボランティアの育成では、人材が圧倒的に足りない。民生委員さんも足りない。それから先ほどもバスの話がありましたが、幼稚園のバス、デイサービスのバスのご協力もいただかなくてはいけない。では、人材育成をどうすればいいのかという事に関しては、やはり家に入ってしまい、リズムができてしまっただと、女性もそうですが、なかなか男性は外に出て来ていただけない。退職時にハローワークの横で、こういう会があります。こういう集まりがあります。最初に周知をして、その段階で巻き込むような工夫があるのではないかと。そこで、例えば、男性の料理教室もありますよとか、色々な告知ができる。皆さん区報をあまり見ないので、その方がよっぽど載せるより効果があるのではないかと。そういう気運、危機感が高まっているときに適切な情報を提供するというのがとても大事なのではないかと。男性に限らず、フルタイムで働いていた方、シングルの女性も多いので、そういった方が退職するときにタイミングを逃さず来てもらうという方法が必要ではないかというお話がありました。最後、健康な食生活を送れるでは、栄養も大事ですが、むしろ、みんなで食事を一緒に共にする場、これは最初の集いと関わりますが、そこが大事であると。例えば、居酒屋さんで空いている時間に皆で集まるだとか、男性料理教室

をやるだとか、そういう区の婦人会の方がそういったものを立ち上げてやっていただくとか、先ほど申し上げたハローワークのカレッジで料理教室をやって、その流れでみんなで集まって食事をするなど、繋がりがあれば1回やって終わりにならないので、そういった意味で色々なご意見が出ました。

○(株)インテージリサーチ 花田 ありがとうございます。最後に4班からお願いします。  
○ファシリテーター (高田) 4班です。私たちは、まず生きがいを持って暮らせる生きがい作りを最初のテーマ。それから困ったら相談できる、介護している家族を孤立させない、それと少し関連していたのですが集う場所、そして、誰かが来てくれて手伝ってくれると助かるという5つのテーマについて話し合いました。全部に共通して言えることとして今、情報発信が足りない。実際に高齢者の方やその家族の方に情報が届いていないという話があり、それでは、その情報発信は誰が行うのかという手段を考えなければいけない、というお話。それから、先ほど一寸出ていたワンストップでコーディネートできるような人材とか、そういうサービスがあると良い、というお話。全般としては情報発信が課題となりました。それから人材育成や、生きがいや家族を孤立させない話の所で、代わりに1日、介護を代行してあげましょうなどの案が出ましたけれども、それには資格が必要だということで色々な縛りがある。そのために実現には至っていない。それでは、今日話し合ったテーマを誰に対してかというお話で、高齢者はもちろんのこと、介護を終了した人、介護をしていたことが終わってしまって、それが生活の一部になっていて、終わったのに自分も積極的に外に出られない、また、介護していた人が介護される側になるという話で、介護が必要となってしまう、その一歩手前の人たちに、その情報が到達して、その人たちを外に出す。そして、その人たちが、例えば、自分が介護していた経験を話していく。情報発信の基になる。それが生きがいになる。全部が関連しているというのを感じてお話をさせていただきました。

それから、集う場所や手伝うという話は、小・中学生にお願いしてはどうかというお話。それは、区を通してあるいは、PTAを通して協力を求めることはできるのではないかと。テーマ5つの中で、割と一番早くできそうなお話かなと思いました。あと、見守りというお話でヤクルト、新聞配達。また、薬剤師さんが検温のために講座を開いたり、そういうことで学校と顔見知りになったことをきっかけに、小・中学生に呼びかけて見る。保護者の承諾はもちろんなので、保護者にもお話しをする。そういった具体的なお話がありました。以上です。

○(株)インテージリサーチ 花田 ありがとうございます。最後に、諏訪会長より全体の総括をお願いいたします。

○諏訪会長 お疲れ様でした。2回やって見てどうだったでしょうか。1回目はこんなアイデア、こんなことがあったらいいよねという話が出て、今日は、テーマを11個たてて深めていくということをやったのだなと思います。お話を聞いていると、1度、各団体が何ができるかと考えていただいたということも良かったと思いますけれども、それがあったので、住民としてこうしたらだとか、小学校に協力を得たらだとか、空き家を使ったらだとか、地域の色々な資源を使ってこういうことができるのではないかというアイデアは豊か

に出たように思います。そこは行政だけで議論をしていると、そういうアイデアはなかなか出ないし、役所はみんなにやらそうとしているのかというような話になるので、そういう議論が少しできたのは、良かったのかなと思います。次は、これを具体のプランとして、どう落とし込んでいくかということになっていくので、そこに行くにあたっては、ここまでは、敢えて委員をごちゃ混ぜでやってみたと。私たちが考えていくときに、例えば、医療介護のことを専門家だけで議論してしまうとダメだし、予防のところも、それでは住民だけで議論すればいいのか、ということそうではないと。敢えてごちゃ混ぜでみんなという形でやったので、色々な視点、アイデアがむしろ出てきたし、視点の違いを共通理解した方がいいのではないかと、ということでやってきましたが、次に行くときには、少し専門的な議論の視点も必要かなと思いました。それから、オール足立、足立区広域で取り組むことと、小地域でやることと分けていくことも必要かなと思いました。身近な圏域でやったほうがいい事も非常に沢山あるし、もう少し広い圏域でやらなければいけない事もある。圏域の視点も必要になってくるかなと思います。それから、住民も頑張る。専門機関も頑張る。ということですが、その辺を行政がどうバックアップするかということも、ぜひ次のときには考えて欲しいと思います。行政の方は沢山いらっしやって、なるべく邪魔しないように周りにいらっしやったということなのですが、議論を少し聞いていただいて行政がどういう、住民や専門機関の動きをバックアップしたらいいかと。身近な区民事務所もあるので、そういうレベルでどういうふうにやっていったらいいかと。行政がどういうふうに住民や専門機関の動きと協働できるか、という視点で次の一步を考えて欲しいなと思いました。今日は、どうもありがとうございました。

○澤田計画担当係長 諏訪会長ありがとうございました。続きまして、伊東課長から一言お願いいたします。

○伊東高齢福祉課長 高齢福祉課長の伊東でございます。まず、事前に様々なご提案をいただき宿題といたしますか、こちらからお願いをしてご提出いただきありがとうございました。そして、本日は闊達な議論をしていただきまして、本当にありがとうございました。最後の発表のまとめを聞いた中で、奇しくも、全体に通じたところでは、情報が一つのキーワードであると感じました。どんな仕組み、どんなことをやっていく、ということを考えるにあたって、何があるのか、どんな資源があるのかということを知らないと良い相乗効果も生まれません。今、諏訪会長にもおっしゃっていただいたように、行政がどのあたりをバックアップすべきかという事を考えたときに、正確できめ細かい情報提供というところがキーワードになるのかなと思っています。今後、地域包括ケアシステムのビジョンを私どもで原案を考えさせていただくことにはなるのですが、その辺り、情報を一つキーワードにさせていただきたいと感じたところです。今後、委員の皆様方にビジョンを策定するにあたって、また、様々なご意見を賜りたいと考えていますので引き続きよろしくお願いいたします。今日は、どうもありがとうございました。

○澤田計画担当係長 本日は長時間にわたりまして推進会議にご出席いただきありがとうございました。次回の開催予定ですが5月23日の水曜日に予定しております。改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。以上で本日の推進会議を終了となります。

が、まず、はじめに傍聴の皆様からのご退場をお願い申し上げます。

(傍聴者退場)

○澤田計画担当係長 続きますして、区から謝礼をお支払いする委員の方で、まだ書類がお手元にある方はお帰りの際、事務局職員にご提出をお願いいたします。また、お車でおいでの方でまだ無料駐車券をお受け取りになっていない方は、あわせてお申し付けいただきたいと思います。名札については机の上に置いてお帰りいただきますようお願いいたします。

それでは長時間にわたりお疲れ様でした。気をつけてお帰りください。本日は、ありがとうございました。